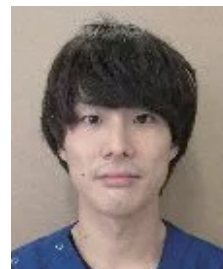


◎ 2021年度同門会 若手外科医賞



独立行政法人国立病院機構 東近江総合医療センター 外科

仁科 勇佑 (平成 28 年度卒)

この度は滋賀医科大学 同門会若手外科医賞受賞を授与していただき、誠にありがとうございました。大変光栄に思うと同時に、身の引き締まる思いです。なにより 2019 年に外科医となつてから、日々臨床の現場でご指導いただいた同門会の先生方に心より感謝申し上げます。特に、今回の論文「小腸 calcifying fibrous tumor に対し腹腔鏡下小腸切除術を行った 1 例」に関しましては、現在大学の肝胆膵チームで活躍しておられます、森治樹先生に多分のご指導を頂き、投稿することができました、本当に感謝しております。私は現在、外科医となつて 4 年目ですが、医師になりたての頃には、「学会発表」、「論文作成」、「研究」を行う事が、「実臨床」にも結び付く、という感覚がありませんでした。

しかし、実地臨床で「典型例にはない特徴を持った症例」に遭遇したとき、「従来の報告との類似点と相違点を洗い出し、その疾患における位置づけを検討する」という作業が、「今後の臨床能力を高めることに繋がる」という事が、症例報告作成を通じて、少し分かってきたように感じています。今後は、大学院で「研究」の分野にも取り組んで行きたいと考えています。現在はまだ実感がないですが、研究を行うことで身につく知識や養われる思考回路も、臨床能力を向上させることに繋がるのではないかと考えています。今回の受賞に対しまして関係各先生方に再度御礼を申し上げますとともに、今回の症例報告が、臨床の現場や疾患概念の確立に少しでもお役に立てることを願って受賞のご挨拶とさせていただきます。